

# SALVADOR

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会報

代表：松本敏之、大倉一郎  
 事務局：横浜港南台教会 中沢 謙  
 〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29  
 Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616  
 郵便振替口座番号：00210 - 2 - 97571

## 小さな喜びに生かされて

小井沼眞樹子

サルバドールでの二年目も、多くの方々のお祈りに支えられて、つつがなく元気に過ごすことができました。心から感謝しています。

### ☆一番新しく、最も小さな教会

今年の後半期には、ブラジル合同長老教会（以下 IPU と略す）の定期総会が7月末にサンパウロで開かれ、ダゴベルト牧師、ジルライニさんといっしょに参加しました。



日本で教団総会とは縁のなかった私は、何が起こるのか興味津々、同時にポ語漬けの三日間に耐え得るか心配半分でした。とある施設に缶詰めになって、全教区から百名余の常議員（牧師と信徒）が集まり、真夜中まで熱い討議を展開。総会新執行部も選出されました。ちなみに、IPU の総会議長は常に長老から選出され、この度は女性議長です。彼女は過去の経験から信頼を得て、二度目の就任。この会議で私は教団派遣宣教師として紹介され、IPU の牧師として公認されました。最終日には、今後の教会の歩みを展望する2つの講演を聴き、宗教改革記念礼拝を他教会の代表者と共に捧げました。内容の詳細には入り込めなかったものの、会議全体の雰囲気と

メンバー相互の関係のなかに、信仰の一致と兄弟愛があふれていて、心熱くされた初めての総会体験でした。

IPU については、会報創刊号で述べたように、ブラジルの軍政時代に旧ブラジル長老教会から追放された反体制派の人々が 1978 年 9 月に全国長老教会連合を立ち上げ、それが IPU 創立となりました。ブラジルで一番小さなプロテスタント教会ということで、全土に 8 教区、46 教会あり、40 名の牧師（女性牧師 10 名）が世俗の職業を持ちながら牧会しています。宣教姿勢として①個人と社会に向けての福音宣教、②周縁化された人々との連帯、③民主的教会形成＝女性牧師職を容認、④他教会との開かれた関係性（エキュメニズム）を掲げて歩んでいます。「改革され、常に改革しつつある教会」と自己表現し、次のような公認の「教会歌」を持っています。

### ♪ QUE ESTOU FAZENDO SE SOU CRISTÃO?

わたしがキリスト信者なら何をしているのか？  
 キリストにすべての罪を赦されたのなら。  
 家もなくパンもない多くの貧しい人がある。  
 救いのない多くのいのちがあるというのに。  
 キリストは私たちの救いのために来られた。  
 分け隔てないすべての人々の救いのために。  
 魂を救うだけでなく、体も復活させるために。

この国には沢山の飢えに苦しむ人々がいる。  
 不幸な人々がいる。  
 子供たちが死んでいく。  
 多くの老人たちが病に苦しんでいる。  
 文字の読み書きを知らない人たち、  
 暗闇のなかで奴隷のように生きざるを得ない人たちが何と多くいることか。

権力を握る人たちに伝えよう。  
 金持ちたちに訴えよう。  
 不正は神に背くこと、恥ずべき悲惨は天を侮辱することだということを。

（日本語訳：小井沼）

短調のメロディが美しい賛美歌で、大切な礼拝やイベントの中でよく歌われ、その度にIPUの魂に触れるような気がします。

<https://www.youtube.com/watch?v=rnQ643PBVJw>

### ☆意気消沈

8月から10月末までは、宗教改革500年を記念して、サルバドールでも多くのエキュメニカルな(=諸教会がいっしょに行う)特別行事が開催され、私も幾つかに参加しました。この教会変革の歴史的出来事を、南米大陸のブラジル、しかもサルバドールという都市で回顧し、その今日的意義を掘り下げること、ヨーロッパや日本とは異なる発見があるのではないか、そんな期待感がわたしの内に大きくありました。



宗教改革500年  
—わたしの教会が受けたインパクト

主催：パイア・エキュメニカル教会協議会

ところが、折角の講演の内容がちっとも理解できない！注意を集中させて一生懸命聞き耳を立てていても、話の根幹がつかめないので、難解な知的語彙とスピードについていけない。要旨がつかめればまだしも、この度はどの講演に接しても殆ど落ちこぼれていました。予めレジメが配布されたり、後でまとめが文書で報告されるということがないので、内容を追跡するすべがありません。自分の限界を突き付けられて本当にかっかりし、これではだめだ～と何日も意気消沈…どうしたらこの言語の壁を突破できるのかと悶々と考えました。が、結局行きついたのは一どんなに頑張ってみたところで、所詮、私は外国人、言葉の限界は超えられない、ならば限界を受け入れるより他にない、大き過ぎることを望まず、限界づけられた生活の中で、私に託されている任務を



精いっぱい果していくことだ—という結論でした。

### ブラジルに存在する長老教会

- ブラジル長老教会 最古最大。保守的
- ブラジル独立長老教会 民主的
  - \* IPUと協力関係を保持。
- ブラジル改革長老教会 ペンテコステ系
- 福音長老キリスト教会
- ブラジル合同長老教会 最新最小。民主的
  - \* CONIC(NCC)に加盟、CMI(WCC)にリンク。

### ☆地域の中へ

私たちヴァレリオ・シルヴァ教会はIPUに属する教会の中でも恐らく最も小さく貧しい教会でしょう。教会員でその地域の住人は3名の高齢女性で、その内2名は今年になって身体の弱さが進行して教会に参加できない状態になっています。そのため礼拝参加者はさらに少なくなりましたが、小さな礼拝の中でいつも愛と憐みの神が私たちの間に臨在しておられることを実感します。そこで信仰を新たにされ、勇気と希望を注がれて歩み続けています。神の家族として相互の愛情も深まってきて、それは本当に恵みそのもの。一小さい群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。ルカ 12. 32

高齢の姉妹たちが教会の交わりから孤立しないように、もう一人の地域の住人Nさんに付き添ってもらって毎水曜日、訪問に励んでいます。



私より2歳年上の彼女は両足の痛みがあり、転ばないように私と腕を組んでゆっくり歩いています。Nさんと同行することで、積み重

なる家々の中へ少しずつ入って行くことができるようになってきました。彼女の母親がその昔、熱心な信徒リーダー（長老）でよく訪問活動し、人々を助け導いた人だったようで、Nさんと歩いているといろいろな人が話しかけてきます。そこで彼女は私を「教会の牧師さんです」と紹介し…今後、私も地域の中に段々と受け入れられていくでしょう。

新たな訪問先は主にNさんの親戚や知り合いの家です。簡素な住まいの中でシンプルな人たちに会います。そこで交わされる会話は、先に述べた講演会とは別の次元で聞き取りが困難で、もっぱらNさんが話し相手になり、何の話かわからなくても私はうなづきながら聞き役に徹しています。またNさんは良い声で賛美歌を歌い、お祈りも担当します。私はただ寄り添うだけの牧師！



Nさんの姑 96歳。孫の家で温かい世話を受けて平安。讚美歌を歌うと喜びの表情が。

交わされる言葉のなかで、少しでも聖書に関わりのある内容が想像できたときに、聖書を開いて読み、ごくシンプルな言葉を加えます。すると福音はすでに彼ら彼女たちの心の中に根づいていて、驚くほど素直に信仰的な応答が出てきて…その時ほど、私を喜ばせる瞬間はありません。み言葉の真理は説明抜きでいのちの糧となって、素朴な人々に生きる力を注いでいる！困難な生活の中で、神の愛を率直に信じて助け合って生きる姿に接するとき、そこに私はイエスがおられると直感するのです。家に閉じこもりがちだったNさんも、訪問の中で喜びを受け取っていることは確かで、足の痛みにめげずによく協力してくださり、生き生きとしてきました。

折しも11月19日は教皇フランシスコが提唱した「貧しい人々の日」。貧しい人々を単なる援助の対象と考えるのは間違い、彼

ら彼女らこそ教会の中心的存在で、福音宣教の担い手なのです、という言葉に深く共感！教皇のアルゼンチンでの貧困居住区に寄り添って歩んできた体験を経て、現在の教皇庁改革の力強い実践が出てきているのですから、そこに真実が見えるではありませんか。

### ☆バイーアのユックリズム

ヴァレリオ教会が将来の伝道のために平地に新会堂を建築するプロジェクトを立ち上げて、募金活動を始めていることはご承知のとおりです。

道路と同じ平面に敷地をつくるためには大木を3本切り倒さなければならず、年頭から市当局に申請の手続きをしてきました。



教会の高台（右）。奥に見える大木を切って平地にする。

ダゴ牧師が再三足を運んでやっと書類上の申請が受理され、指定の伐採業者も現場を見て見積もりを出してきて、これで事が前に進むと思いきや、最終の工事許可は市政府が出すというのです。けれどもいまだに何の沙汰もありません。このまま年末になり、またもや「カーナバル明け」ということに？バイーアは何とゆっくりなのでしょう。

### 新会堂建築献金へのご協力をお願い

総工費見積もり＝500,000レイス  
(日本円に換算して約1500万円)

\*会報2号と3号の紙面で5000レイスと記載したのは誤りでした。お詫びして訂正いたします。

現在の献金額＝151,450レイス  
引き続きお祈りと献金をよろしくお願ひいたします。

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
会費・特別献金	省 略	支援金	
利息		事務費	
		振込手数料	
小 計		小 計	
前月より繰越		次月へ繰越(通常)	
合 計	省 略	合 計	省 略

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
会堂建築献金		支援金	
小 計		小計	
前月繰越金		次月繰越金	
合計	省 略	合計	省 略

年会費・特別献金 献金者名 (敬称略・順不同)

2017.6.1～2017.11.25

省略(57名)

会堂建築献金者名 (敬称略・順不同)

省略(16名)

編 集 後 記

Y. K(横浜港南台教会員)

会報 4 号をお届け致します。

世界も日本も激動のなかにあって、小井沼宣教師を通して、私たちは少しでもブラジル・サルバドールのことを想像し、学び共感できます幸を感謝いたします。

宣教の日々をつづられた言葉をたどり、共に歩む思いを確かめたいと思います。

「小さな喜びに生かされて」はブラジル合

同長老教会のこと、その定期総会の雰囲気の写真と共に想像出来ます。小井沼宣教師訳の“教会歌”はまさにブラジルの周縁化された人々の現実を知らされます。言葉の壁に「意気消沈」されてもそれを越えて、「地域の中へ」向かわれた結果、見事に感動の瞬間に出会われた。その時の宣教師としての喜びを共感し、神様に感謝いたします。

小井沼宣教師のご健康と、新会堂建設を覚えてお祈りいたします。